

生活を見守る
そう直
かがやを見

ひとの顔は 毎月の人を愛す
外景もそうは
まぶしの色も 目は何こへやう
口元は ゴルビツクさな木さ
口元が両分り
肉は けし出してり
のどは ぶんどりの なく 時 ぞうも
人ほ 九十年をまゝと 妻は 芥子
こむでは 何もわらわりの 老人と 子供と
ても 任方がい

自う水どう思つてい
人ほ 外側と 反る
る 私自身内木も ありし
いから
任方 有い と なる
その 時 一人の人
物として 子と 母と
あつた
うれしいし 私も
一人の人物に
思ひ 有る
思ひ 守りし
て 子と
ひどい
さな
どうでも
いい 毎日
を 守り
て いる
かみの
毛は どの
方だ
い 時々
やぶる
長く
守り
て いる
所を
みる
着る
もの
も 熱も
ひら
ぬも
あつた
区別
木を
い

身のそわりの状態など目に写るとやむを得ず
はがゆら

部屋はほこりだらけ

これじやほこりの甲斐の生活

昔をふりかへりなつかしく思う日々を

何となく思いはじめた

それは今年の目標としてい

不甲の物の知合なるとか知るいは知りして

いるあがりのお食事とい

スタートしはじめた

フブキていきたい

少しお尻はかくなく
年使は
お尻下履上い

2023
4/13